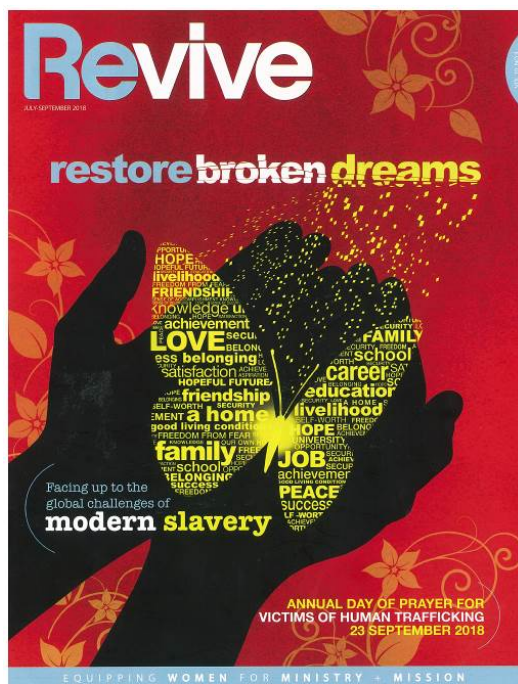


# リバイブ

2018年7～9月

## 取り戻そう 壊された夢を

世界の女性のための  
救世軍季刊誌  
日本語（抄訳）



### 日本語訳記事の目次

タイトル	執筆者	ページ
1. 現代の奴隷に希望をもたらす	イギリス・アイルランド軍国 ダイアン・ペイン大佐補 伝道事業部付 人身取引及び現代奴隷問題担当	P. 2-4
2. 勇敢であれ	アメリカ西部軍国 リサ・バーンズ大尉 シアトルホワイトセンター小隊長	P. 4-5
3. 部屋の中の象 — 人身売買 —	フィリピン軍国 エルサ・オーラン大佐補 人事部長	P. 6-7
4. 木々と私たち	アメリカ西部軍国 ジョリーン・ホッダー中將 軍国女性部会長 2018年コラムニスト	P. 8

# 1. 現代の奴隷に希望をもたらす

イギリス・アイルランド軍国  
ダイアン・ペイン大佐補  
伝道事業部付  
人身取引及び現代奴隷問題担当

## ジェイン・キンベリー少佐によるダイアン・ペイン大佐補からの聞き書き

農場でも建設工事現場でも、そして工場、ネイルサロン、洗車場、レストランやホテルでも、英国では、なぜ多くの人々が奴隷として働いているのでしょうか。ダイアン・ペイン大佐補は、しばしばこのような質問に出くわします。質問する人々は、自らのコミュニティの中に現代の奴隷制度が存在し、それに直面させられていることを信じざるを得ないことに苦しみを覚えている人たちです。軍国の本営にある人身取引と現代の奴隷制度に反対するチームのメンバーとして、ダイアンは、人々が、どのように密売者によってだまされ、利用され、そして虐待されているかを調べました。

人々は、しばしば性的搾取を人身取引や奴隷制度に結びつけますが、そのきっかけは、はるかに広範囲なものです。ある人は、家政婦として国内に引き入れられます。しかし、その扱いは奴隷であり、給金も支払われず、あるいは休みも与えられません。そして、一人で外出することも、あるいは人と付き合うことも許されません。

人身取引と現代の奴隷制度は犯罪行為と結びつきます。その中には、大麻農園での労働や麻薬の運び屋として、あるいは盗みの手先としての児童酷使が含まれます。犯罪者は奴隷に、盗品であるデビットカードやクレジットカードを送りつけ、現金自動支払機からの引き出しをさせます。したがって、逮捕されるのは奴隷なのです。ある人々は、建設工事現場やあるいは農場で働くために奴隷にされます。そして人身取引業者が、振り込まれた賃金を得るためにだけ、彼らの名前で銀行口座を開設するのです。

救世軍は、6年にわたって、イングランドとウェールズにおける、英国政府の被害者監護調整協定の運用の任にあたってきました。救世軍は、捕らわれた状態から逃れた人たちのみならず、警察や医療従事者やNGOのメンバーによって救い出された人々を助けることにおいて重要な役割を果たしています。そのサービスは、被害者監護を請負うオフィスに、1日24時間・週7日の体制で紹介をする電話回線を持っており、必要性を判断した後に、被害者を、最もよく支援できるシェルターに送ります。私たちには安全な隠れ家がありますとダイアンは説明しています。しかし、シェルターをもつ他の12の機関に向いて、その仕事を請け負うこともします。救助された人は、加害者がいる区域から十分に離れたところへ移されます。

救世軍は、自らのシェルターを運営するだけでなく、人々を送り込む場所の調整や、全シェルターの規準を監視します。人々のシェルターへの輸送に重要な役割を果たすのが、ボランティアとして活動する救世軍の運転手と付添人です。電話連絡を受けて、対象者を拾う場所に赴き、安全な場所へ届ける準備ができていないボランティアたちのデータベースが整備されています。シェルターの場所は機密保持されており、対象者を送り届けた人々には、誰も連れて帰らないことと、シェルターのことを話さないことが言い渡されています。加害

者が携帯電話で対象者たちに連絡を取ろうとする状況があるときには、ケースワーカーが、SIMカードを変えるか新しい携帯電話のようにアドバイスします。彼らが救助されるときに、警察当局が彼らに別の電話を支給する事例もいくつかあります。

シェルターに収容されている間は、各人にケースワーカーがつけられ、彼らにとって必要な事柄と、彼らが前進できるように仕事と住まいを見つけるサポートをします。同様に、通訳や、カウンセラーや、法的な援助についても調整します。EU（ヨーロッパ共同体）市民権を持つ人たちは、ヨーロッパ大陸から来た人たちと同じように、英国に在留する権利があるのですが、もし彼らが帰郷することを望むときには、母国に安全に帰ることができるように支援をします。

EU市民権を持たない人たちが在留を望む場合には、亡命の手続をとることができるように支援をし、法的な代理人に連絡がなされます。しかし、もし、帰郷を望むときには、ケースワーカーは、行く先の安全の確保に努めることとなります。英語を話すことができない人たちには英語講座を受講する支援がなされ、子どもたちには学校に居場所が確保されます。

このチームでは、人身取引の「兆候を見つける」ための国民意識の向上を助けるための働きを行っています。これについて、ダイアンは、次のように説明します。「結局のところ、良くないことに関しては、目をあけて、そして連絡をいとわないことです。もしあなたが洗車場に行くなら、労働者がちゃんとした仕事着を着ているかどうか見てください。彼らに、疲労や栄養不良の様子はあらわれていますか、監督者に脅されているように見えますか？ ネイルサロンであなたのつめの手入れをしてくれる人は、目を合わせることを避けていませんか？ 彼女たちはあなたに話しかけますか？ それとも黙っていますか？ 誰かが彼女たちを監督して、銀行口座の預金を取り仕切っていますか？ あなたが住んでいる通りに、常にカーテンが引かれている家はありませんか？ そして、その家から朝になると幾人かがワゴン車に乗せられていき、夜になると彼らが戻ってきたりすることはありますか？ 家庭に住み込みで家事手伝いをしている人がいて、その人は他の家族と異なった扱いを受けているようなことはありませんか？ その人たちは服従させられていて、誰とも言葉を交わすことが許されず、友だちをつくることも許されていないのですか。」

「最近私は、会議で、認識を高めることについて話をしました。会議に出席していた警官が昼休みに交番に戻った時、女性と子どもが階段に座っているのを見つけました。彼は、女性にいくつかの質問をした結果、現代の奴隷の姿を見いだしたのです。その女性と子どもは、必要な助けの提供を受けることができました。」

またある時、ダイアンは医師の訪問を受け、その数週間前の話を聞きました。身なりのちゃんとした女性が彼の診察室に入ってきたのですが、18カ月の子どもと、13歳の女の子を連れていました。女の子は古びた服を着ていて、感情を押し殺したような表情でバッグを持たされていました。彼は、この女性が誰であるのかを調べるために診察室に戻りました。その女の子が家庭内奴隷である可能性を感じたからです。

現在、このチームでは、次の出口の中継拠点を6つの小隊でつくりました。その理由は、ひとたび支援から離れて独立した生活を送るようになると、乏しい英語力で新しい地域に暮らすことは困難なことになりやすいからです。中継拠点というのは、追加的な支援を提供することによって人々の安全の保持を助ける方法です。このようにして手助けを受けた人々の幾人かは、信仰を持つに至り、霊の住まいを救世軍に決めました。いくつかの小隊では、メンバーたちが、救助された子どもたちや大人たちのために慰問袋を作って、彼らに歓迎の意を表し、気にかけている人がいることを知らせています。

2017年にこの奉仕の対象は、93の異なる国から来た2,589名に上りました。その中の最大数はアルバニアで、それに次ぐのがベトナムとナイジェリアです。また、救世軍には国際部門が置かれ、ナイジェリア、ネパール、フィリピン、タンザニア、マラウイとポーランドを含む様々な国でプロジェクトが進行中です。これらの国々での働きは様々で、認識の向上や、時には地域社会に入って行って救援や再統合を図ることに焦点を合わせています。ネパールでは女性たちが美容法を習っていますが、それは彼女たちが自活できるようにするためです。また、ポーランドでは、求職者たちに、求職志願書は入念に見るように勧めています。これらすべての努力は、人々がわなにかけられるのを防ぐことを目的としています。

2004年には、世界の救世軍の指導者たちが、次のことを誓いました。それは、彼らの軍国の中で、人身取引と現代の奴隷制度への認識を高め、能力が及ぶならば、これに関する行動をとろうということでした。14年が経ち、人身取引及び現代の奴隷制度の問題への認識は高まりを見せ、これに関する働きは増えました。そして、悲劇的な物語から脱出して、いくつかの嬉しい結果ももたらされています。

## 2. 勇敢であれ

アメリカ西部軍国  
リサ・バーンズ大尉  
シアトル ホワイト センター小隊長

私は勇敢でありたい、神様を愛したい、そしてそのために他者を助けたいと思っていますが、私の人生は全く異なるものであったかもしれません。私の生みの母親は、アルコール依存、薬物中毒を抱える性労働者でした。私は15歳を迎えるまでに35以上の里親の家庭を転々としました。学校ではいつも落第で、私が先生の手になんかなくなった時にそのクラスを合格させるという繰り返しでした。小さいころに描いた将来計画は、いかにしたいことをしながらも刑務所に行かずに済むか、創造的なアイデアを編み出すというのがほとんどでした。

呪いと嘘と盗みに満ちた人生を送り、完全に絶望しきっていたある日、家のドアをノックする音がありました。予期しない来客は大抵悪い知らせを伝えるものと、以前の経験から学んでいました。しかし、その日は違っていました。ためらいながらもドアを開けると、老婦人が箱一杯の食べ物を持って立っていました。彼女は「ジーンおばあちゃん」と名乗りました。彼女はもちろん私の祖母ではありませんでしたし、他のだれかのおばあちゃんだったのかも私は知りませんでした。相応の年齢に見えました。彼女は、救世軍の人で食料を届けに来たと言いました。私は彼女を室内に迎え入れ、その箱を机の上に置きました。箱の中を覗くと、わたしたちの家の台所ではここ数週間見てもいないような量の食料が入っていました。最初に私の頭に浮かんだのは、「もう食べるために盗む必要はないんだ」ということと、

「ママは、これで何日間は通りに出て働かずに、家に居られるかもしれない」ということでした。

ジーンおばあちゃんは私の母と話し始めました。他の人々とは異なって、ジーンおばあちゃんは母を、ものではなく一人の人間として見ているようでした。二人は30分ほど近く、話したり笑ったりしていました。ジーンおばあちゃんは帰り際に救世軍のユースの集いに参加しないかと私に尋ねました。他の子が私を好きになってくれないかもしれないし、受け入れてくれないかもしれない、あるいは私がどんな所に住んでいるか、母が何をしているか知られたらからかわれるかもしれない、と私は心配に思いました。しかし、私は自分の居場所をとっても必要としていたので、その誘いを受けることにしました。ジーンおばあちゃんは帰る直前に「金曜日に車がここまで迎えに来るからね」と言って帰っていきました。金曜日になると車が到着し、まもなく日曜日と水曜日にも来るようになりました。救世軍の人々は私がどこに住んでいるか、母が何をしているか知っていながらも、それでも私を愛してくれました。そんな彼らの優しさが私を神の国へと導いてくれました。

救世軍に通うようになって数カ月後、私はイエス様を受け入れ、後ろを振り返ることはありませんでしたが、家庭の方はうまくいっていませんでした。私は18歳になるまでの約2年半、小隊長たちと一緒に暮らしました。20歳の時、私はのちに夫となる男性と出会い、8カ月後に結婚しました。驚くほど早い展開で、統計的には大抵うまくいかないことが多いので私はあまりおすすめしません。しかし、私たちは結婚して14年になり、今でも、当時以上に愛し合っています。2年後、私たちは士官学校に入学し、それ以来10年間士官を務めてきました。私たちがリトルとハリケーンと呼んでいる二人の子どもにも恵まれました。本当の名前はアンソニー(13歳)とレイラ(6歳)です。

とても辛い日があっても、私は救世軍士官であることが心の底から大好きです。他のどんなことをしたとしても、今と同等の目的と喜びを持てるような人生は想像できません。私は伝道すること、子どもたちと過ごすこと、イエス様の偉大さについて話すこと、人生を共に歩む人々を鍛錬すること、そしてその他、士官であることを通して経験するすべてのことが大好きです。一報告書に記入することを除いてですが、人生楽あれば苦ありです。

教会のために働く上で最も素晴らしいことは、心が燃やされることを実践できる機会があることです。「売春婦の娘への愛－恵みと贖いというレンズを通して見る人生と信仰－(原題: *Love To A Whore's Daughter: Life and Faith Through The Lens of Grace and Redemption*)」の本の執筆はその一部です。

私が参加した中で最も良かった活動の一つが、里親制度の中で生活する女の子たちを助け、強めるための、BRAVE (ブレイブ) というプロジェクトです。そのような女の子たちの多くは搾取されやすく、忘れられてしまいがちなので、私は他の士官たちや指導者たちが一歩踏み出して、その助けとなれるよう後押しをしています。

教会も変化を及ぼすことができます。私は、私を愛し、私にイエス様について教え、希望をくれた人々に感謝しています。私が2017年3月に亡くなった母と違う人生を送ることができているのは、その人たちのおかげです。私がどん底にいたときに私を愛してくれた人たちがいなかったなら、私はイエス様の足跡ではなく母の足跡を追っていたかもしれません。

### 3. 部屋の中の象 ー人身売買ー

フィリピン軍国  
エルサ・オーラン大佐補  
人事部長

「この民は略奪され、奪われ  
皆、穴の中に捕らえられ、牢につながれている。  
略奪に遭っても、助け出す者はなく  
奪われても、返せと言う者はない。」(イザヤ書 42 章 22 節)

人身売買はいつの間にか入り込み、社会の精神的、道徳的、文化的、そして政治的な構造をもろくする恐ろしく邪悪な“巨人”となってしまいました。奴隷制度が自由と繁栄への唯一の近道だという見せかけによって、人身売買が世界各地で栄えてしまっていることはなんと皮肉なことでしょう。

#### 歴史的・文化的文脈

他の多くの国と同様、フィリピンでは、貧困が奴隷問題の大きな原因となっており、特に立場が弱く、虐げられている家庭において顕著です。「カピ・サ・パタリム(*Kapit sa patalin*: ナイフの鋭い刃にしがみつく)」とは、危険や絶望的な状況にあって、生き延びるためならどんなことでもする人の様子を表す熟語です。ナイフの鋭い刃とは、あり得ない利子がついてもお金を借りねばならない状況を指すかもしれませんし、あるいは、何らかの見返りのために性的関係を持つことに同意したり、個人の尊厳や道義を放棄する状況を指すかもしれません。

この国では文化的に、家族の一人が貧困や抑圧から他の家族を救うため、ヒーロー役を買って出るといったことがあります。このシナリオは仲介人や人材採用者を生む元となりました。例えば、地域の誰かが家政婦を必要としていますとします。人材採用者は求人を助けるとともに、その人の愛する家族の安全まで責任を持ちます。こういった役割は、長年の間、地域社会において良い感化を与えていました。

#### マニラから他の国々へ

田舎に住む多くのフィリピン人にとって、首都マニラは天国でした。名所や騒音が、希望と自由としてこだまする「約束の地」でした。長年にわたって政府は郊外近代都市化プロジェクトを含む様々な改革に着手し、国全体で多くの町村が、市へとアップグレードされました。地理的にも政治的にも、より大きく、より革新的な都市マニラが設立されましたが、貧困問題に目は向けられませんでした。最も貧しい人々の生活環境は、急激な人口成長、政府各庁の汚職の増加、災害や各地での内乱で余儀なくされた立ち退きなどによって、さらに悪化しました。このような状況の中、他の国々が海外労働者を求めて扉を開いた時、何百万人

ものフィリピン人が機会を捉えようと手を伸ばしました。フィリピン統計局(2017年4月)によると、フィリピン人海外契約労働者は220万人にも上ります。

### 部屋の中にいる象

本来、家族と善意ある人材仲介者間のシンプルな交渉であったはずのものが組織犯罪へと発展し、規模が肥大化しています。部屋の中にいる象のように、問題が大きくなりすぎ、言及するだけでも恐ろしく、取り扱うには危険すぎるものへとなくなってしまっているのです。人身売買は、性的搾取や臓器密輸、出会い系サイトの花嫁募集など、他の恐ろしい犯罪へと枝分かれしています。

悲しいことに、人身売買が蔓延している場所では、それが目に入りません。親が我が子を性的搾取のために売り払い、地方役人が賄賂を受けたり売買に携わった、本来被害者を救うべき立場にいる人々がむしろ被害者を奴隷状態へと押しやり、解決する側ではなく問題の一部となってしまっているのです。

### 苦しむ人々に仕える

人身売買との戦いにおける最も大きな困難は、この問題における教育の欠如と解決策の欠落です。2005年、フィリピン軍国は赤線地区内の性労働者への活動を始め、現在進行形である人身売買との戦いへ救世軍的アプローチの進路を定めました。救世軍の役目は、防止・支援・回復です。人身売買組織はよく組織されていて危険なので、軍隊のような特殊部隊が被害者の救済にあたります。

救世軍は、まずミンダナオ島とスールー諸島を当初の活動拠点として選び、数年後に他の地域にも活動を展開する予定です。

ミンダナオ島では、人身売買の被害者に一時的な宿泊設備を提供するバレー・パグラウム(希望の家)を2012年に開設し、被害者たちが暗い経験から安全な生活にシフトチェンジできるよう助けています。

バレー・パグラウムの働きは、奉仕と支援の視野を広めるためのコンバット&ケア・プログラムによって促進されました。士官やボランティアが人身売買について人々を教育できるようトレーニングを受け、2017年にコミュニティー・アウェアネス&リカバリー・プロジェクト(CAR:地域の認識向上と回復のための計画)が始まりました。このよく組織された支援活動には、地域・学校・政府・非政府団体(NGO)とのパートナーシップなどが含まれていました。現地作業員は様々な地域に派遣され、支援活動を先導しました。

救世軍初の「人身売買と現代奴隷:変わるための道筋をたてる共同作業・共有・ロビー(陳情)活動」をテーマとした会議が、ダバオ・シティーで開かれました。会議はCARのプロジェクトマネージャーであるパスカ・ムーア氏とCARのプロジェクトコーディネーターであるメリнда・ブーン大尉によって進められ、司法省、州の人身売買関係機関評議会、インターナショナル・ジャスティス・ミッションやNGOのパートナーからスピーカーを招きました。この会議によって救世軍は活動的な反人身売買支持団体として承認され、政府や他の機関とのネットワークやパートナーシップを強めました。

CARプロジェクトは、様々な場所に対策本部を置くことによって地方政府に大きなインパクトを与えています。地方政府当局者はCARプログラムのミッションに協力・献身するという内容の基本合意書にサインしました。法執行官と軍関係者も支援を示し、あるラジオ局はCARプロジェクトの目標に関するインタビューを放送しました。

4カ月にわたり、活動は48の地域と24の学校で実施され、22人の人身売買からの生還者たちがCARプログラムを通して支援されました。

戦いは極めて厳しいものです。私たちの支援と社会復帰プログラムは地域に大きな影響を与え、彼らが自己防衛できるよう強めています。救世軍が、神様のミッションを行うとき、神様は共にいてくださるのです。

「王が助けを求めて叫ぶ乏しい人を  
助けるものもない貧しい人を救いますように。  
弱い人、乏しい人を憐れみ  
乏しい人の命を救い  
不法に虐げる者から彼らの命を贖いますように。  
王の目に彼らの血が貴いものとされますように。」  
(詩編 72 編 12-14 節)

## 4. 木々と私たち

アメリカ西部軍国  
ジョリーン・ホッダー中將  
軍国女性部会長  
2018年コラムニスト

私は、私の家族とともに、西ケニアのカカメガの森で、多くの素晴らしい休日を過ごしました。この森はその中にあるハイキングロードで有名ですし、また、その近郊の 300 種を超える鳥類により、バードウォッチャーに親しまれています。この森は、蝶の愛好家をも決して失望させません。そこに 400 種以上が生息しているからです。ヘビの愛好家は、黒と緑の両方のマンバ〔注：アフリカ南部産のコブラ科の毒ヘビ〕や、岩ニシキヘビと他のタイプの関連した爬虫類を、ちらりと見ることができます。森の動物には、その他、カワイノシシや、ブッシュバック〔注：南アフリカ産の羚羊(れいよう)〕、センザンコウやオナガザルがいます。

それにもかかわらず、私のリーダーシップの変革の助けになったものは、森にある、150 もの、異なる種類の木々でした。ハイキングに出かけた時には、いつでも、ガイドさんがこれらの木々を指さしては、各々の木々がどのように、その地方の部族に役立っているかを説明してくれました。私が驚かされたのは、いかに、これらの木々の間の相違点を彼が見分けていたかということでした。どの木も、違っていたのです。あるものはまっすぐに伸びた高木であり、他のものは身をかがめています。あるものは細い幹であり、他のものは茂っています。あたかも木々が抱き合っているかのように、茂った葉が絡みあっているものもあります。倒れた木を目にしたとき、私は悲しみを覚えたのですが、あるガイドさんが、倒木もまた大切なものなのだということを指摘しました。倒木たちは、小動物に避難所を提供している森林の天蓋を開け、樹皮を食べる他の動物のために食料源となります。そして、それ以上に、倒木の化学的な分解が進むにつれて、土地が肥沃になり、森林の成長に役立つのです。ガイドさんが教えてくれたことは、壊れて役立たずのように見える木々を、なお正當に評価することでした。

詩編 139 編 14 節は、私たちはすべて、神様の唯一の被造物であって、私たちの最も小さなところでさえ、素晴らしいものとして造ってくださったことを記しています。神様の業は常に完璧です。私は、リーダーを務める者として、全ての神の子が唯一のものとしてその真価が認められていることを感謝するように、人々を木々にたとえたいと思います。私が裁くことをやめ、今歩む道を歩む理由を知りたいと思うようになったなら、私は、より強く神と結ばれ、より耳を傾ける者となるでしょう。私は問いかけ、より深く意味深い会話をするよ



うになり、他者をよりよく励まして、神様が創造されたような姿にすることができます。また、その人生経験が神様の恵みの証しとなるように、彼らを力づけることができます。

おそらく、私たちは皆、より多くの時間を、木々とともに一曲がったところや、先端のどがったところ、不完全なところに感嘆して一、 過ごすべきなのでしょう。そうすれば、私たちは伝道の場に立ち戻ってからは、互いに木々の心となって、その結果、驚くべき神様の御手の業のゆえに、心から神様を賛美するようになるでしょう。